

2021年度 日本演劇学会 全国大会 「臨界点の演劇」 6月26日 (土)			
	ルーム1 TS (テクニカル・サポート) : 木下 耕介 (群馬県立女子大学)		
10:00-10:30	開会挨拶 会長 永田 靖 (大阪大学) 会場校挨拶 岩井 眞實 (名城大学)		
10:30-12:00	司会 岩井 眞實 (名城大学) 基調講演 ボナヴェントゥーラ・ルペルティ (ヴェネツィア大学教授) 『コロナの時代の舞台芸術 — 臨界を越えるイタリア E quindi uscimmo a riveder le stelle.*』 *そして我らは、星を再び仰ぎ見ようとして外に出た。(ダンテ『神曲』地獄篇の最後のフレーズ)		
12:00-13:00	昼休憩		
	ルーム1 TS : 岡田 万里子 (桜美林大学)	ルーム2 TS : 大林 のり子 (明治大学)	ルーム3 TS : 井上 優 (明治大学)
13:00-13:40	司会 岩井 眞實 (名城大学) ①慶長期の能型付相伝—下間少進『童舞抄』相伝の影響を中心に— 岡田 登貴 (大阪大学大学院)	司会 木下 耕介 (群馬県立女子大学)	13:00-15:00 〈パネルセッション②〉 To Be, or Not To Be A Machine — 『機械の私』 (2020) における人間と機械の臨界点 田中 里奈 (明治大学) 萩原 健 (明治大学) 司会 : 市川 明 (大阪大学名誉教授)
13:40-14:20	②疫病と近世の人形浄瑠璃 林 久美子 (京都橘大学)	④大学教育の中のドラマ教育の可能性～初年次教育における演劇ワークショップの役割とは～ 仙石 桂子 (四国学院大学)	
14:20-15:00	③坪内逍遙の史劇改良—「桐一葉」における〈型〉の崩壊— 金 智慧 (大阪大学大学院)	⑤演劇脳科学事始め 田中 昌司 (上智大学)	
15:00-15:15	休憩		
15:15-17:15	〈パネルセッション①〉 日本演劇と感染症—演劇を襲った病と演劇に描かれた病 寺田 詩麻 (龍谷大学) 中尾 薫 (大阪大学) 松本 俊樹 (大阪大学) 司会 : 日置 貴之 (明治大学)	15:15-15:55	司会 梅山 いつき (近畿大学) ⑥唐十郎の初期作品における女性表象—『少女仮面』と少女論を中心として— 久保 陽子 (富山高等専門学校)
15:55-16:35		⑦表象の臨界点としてのエスニシティ／出自 : 『唐版犬狼都市』 (一九七九) において人間が犬になりかわることの意味について 日比野 啓 (成蹊大学)	
16:35-17:15		⑧「中の人」論 平川 大作 (大手前大学)	
			17:30-18:30 理事会

6月27日（日）			
	ルーム 1	TS：梅山 いつき（近畿大学）	
10:00-12:00	〈対談〉 「臨界点の演劇」と地域共同体—「現代版組踊」と「豊岡演劇祭」 平田 大一（演出家・脚本家・詩作家） 平田 オリザ（芸術文化観光専門職大学） 司会：本橋 哲也（東京経済大学）		
12:00-13:00	休憩		
	ルーム 1	TS：大林 のり子（明治大学）	
13:00-14:30	総会 河竹賞授賞式 河竹賞奨励賞受賞者挨拶 埋忠 美沙 『江戸の黙阿弥 善人を描く』 桜木 陽子 『中国古典芸能論考—元代の楊貴妃の物語を中心として—』		
14:30-14:45	休憩		
	ルーム 1	TS：須川 渡（福岡女学院大学）	ルーム 2 TS：井上 由里子（静岡文化芸術大学）
14:45-16:45	〈シンポジウム〉 いま、臨界点にある演劇：「現代版組踊」から、演劇と地域、教育、産業を考える 発表者： 片山 幹生（大阪市立大学） 鈴木 理映子（編集者・ライター） 畑中 小百合（大阪大学） コメンテーター： 澤井 万七美（国立沖縄工業高等専門学校） 永田 靖（大阪大学） 司会：館野 太朗（在野研究者）		司会 新沼 智之（玉川大学）
			14:45-15:25 ⑨初期近代イギリス演劇と疫病：シェイクスピアを中心に 道行 千枝（福岡女学院大学）
			15:25-16:05 ⑩ジャポニズムの終焉—アンドレ・アントワーン演出『日本の名誉』 柏木 純子（大阪大学大学院）
		16:05-16:45 ⑪共同製作のドラマトゥルギー—現代ドイツにおける劇場環境の変化に関する一考察 横堀 応彦（跡見学園女子大学）	
16:45-17:00	閉会挨拶 井上 理恵（桐朋学園芸術短期大学）		閉会挨拶 小菅 隼人（慶應義塾大学）